

第5学年 図画工作科学学習指導案

令和2年10月23日（金）

図工室

第5学年2組25名

研究主題 楽しみに思える未来を創造する児童の育成
～「みらい科」「教科学習」を通して～

1 題材名 「土でかく」（絵に表す活動）

2 題材の目標

身近な自然や土に関わり、土を混ぜ合わせて絵の具をつくることを基に、造形的な活動や新しい形や色などを思いつきながら、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、形を変えたりするなどして活動を工夫し、土を混ぜ合わせつくった絵の具で表現を試したり、土の表現のよさや違いを鑑賞したりする活動に取り組む。

3 題材の評価規準（◎・・・重点）

◎知識・技能	◎思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身近な土を混ぜ合わせ絵の具をつくる行為や、その質感や色合いの違いやよさを感じ考える自分の感覚を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。共通事項（1）ア ② 自分でつくった土絵の具で絵に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫している。A表現（2）イ	① 土の形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。共通事項（1）イ ② つくった土絵の具で絵に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。A表現（1）イ ③ 土や絵の具が混ざり合う様子などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。B鑑賞（1）ア	① 身近な土を混ぜ合わせつくった絵の具をもとに主体的に表現したり、土でできる表現の違いやよさを鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとしている。 高学年の目標（3）

4 指導観

(1) 教材観

本題材は、身近な自然や土に関わり、土を混ぜ合わせ絵の具をつくることを基に、造形的な活動や新しい形や色などを思いつきながら、土でできる表現を試したり、そのよさや違いを鑑賞したりして絵に表す題材である。「土を混ぜる、土で絵の具をつくる、土でかく」という活動を繰り返す中で、普通に表現するだけでは見付けることのできない形や色の面白さや違いに着目し、より深い学びになることを目指している。本研究で目指す「自分で考え、判断し、行動できる児童」を育成するにあたり、身近な土を利用することでより深い学びにせまっていきたいというねらいがある。

本研究の中心にある「自分の力で取り組む」とは、すべての教育の中心にあるとても大切な能力だと考える。しかし、日常の授業では時間数やカリキュラムの関係上「できる」ことが中心になりがちであり「できたから次に進む」という短絡化が行われる場面も見られる。本題材では、「できる」の背後にある「わかる」の豊かな世界がより広がるよう、「土絵の具で表現する」活動を通して、「できる」→「わかる」→「もっとできるようになりたい」→「自分なりの課題をみつける」という学習過程の中で様々な葛藤や経験を積むことを目指していく。また、その過程を踏むことで、土と自分の関係を見付け直したり、土絵の具としての材料が少しずつ自分の身近な材料となり表現に結びついていく活動を大事に見守っていく。そのような活動を続けていくことで、自分の力で取り組もうとする子が育成できるのだと考える。

(材料について)

本題材の中心材料は土であり、本題材の活動は土を集めることから題材が始まっている。もちろん土絵の具をつくるという経験だけであれば、授業者が用意してもよいのだろうが、それでは自分の思いをもつという点では物足りなく感じたからである。普段は愛着もないであろう土を集めるという経験により「自分の土・思い出の場所でとってきた土」など少しでも自分の思いを込めて欲しいと考えた。

土の収集については9月初めに呼びかけている。1ヶ月ぐらい時間があることで頭の隅に土を意識して生活することになり、普段とは少し違う視点で物事をみるきっかけになると考えている。また、集めた土は瓶に入れ鑑賞する。普段とは違う見方をすることで色の違いや自然材料の美しさなどを味わう活動から始めて欲しいという思いからである。

また、絵の具にする時の接着材として洗濯のりを使用する。透明な洗濯のりを使用することで土の色味の変化をより味わえると考えている。ただ、大量の土絵の具をつくり半立体的に表現したいという児童がいることも考えられるのでボンド液も用意しておく。

(場所について)

今回は普段の授業の延長として捉え、作品と自分の間の活動に集中できるようにするため図工室で行う。また、できた作品や友だちの表現や工夫をすぐに見られるように前のテーブルやホワイトボードのスペースを空けておき作品を並べたり、貼ったりできるようにしておく。

① 学校で用意する材料、用具

身近な自然の土、胡粉、いろいろな大きさの紙、篩、ビン、小皿、筆、筆洗、洗濯糊（PVA）、ボンド液、雑巾、名札

② 児童が用意する材料、用具

身近な自然の土（1ヶ月の間どこかで探してくる）筆記用具、汚れて良い服

(2) 児童観

本校の5年生はよく考え自分で行動できる児童である。表現することに抵抗が少なく、縦割り活動などでも率先して行動できる児童が多い。授業者とは昨年度からの関わりだが良好な関係をつくってくれており、図工の授業には積極的に取り組む姿が見られる。予想をたてて表現したり、出来事と理由を関連付けながら説明したりするなど、高学年として踏み込んだ学習も行えている。そのため、本題材のように自分で追求していく活動についても、比較的スムーズに行えると予想できる。ただ「絵をかく」という表現形式に関しては、急な渡し方をするとう苦手意識をもつ児童もいる。そこで、本題材では「材料をつくり味わう・何度も試す場がある・表現に合わせて紙を選ぶ・友だちの活動が見える」など、児童が気軽に表現してみたいくなる環境を用意し進めていく。つまり、高学年だからといってはじめから難しい環境を用意するのではなく、初めは低学年のようにやってみる、次は中学年のように友達とよさを見付けたり比べたりするなど、今までの経験を生かせるような活動を取り入れながら、少しずつ自分の思いを膨らませていけるような題材にしていく。単純な行為から自分のやりたいことを試していき、繰り返す中で組み合わせを変化させたり、表現を変えたりすることが何度でも行えるような場を用意することで、児童が自らの活動について不安にならずつくる喜びを味わえるように進めていけるようにする。

また、本題材では絵のテーマを設定していない。具体的なテーマを提示したり、表現方法をある程度限定し進めたりすることもできるだろうが、本題材では土を感じる中で立ち上がってきた児童の思いを大事にし自分でテーマを決めていけるようにしたい。「材料の組み合わせを試し、考えつくり、鑑賞し、さらにつくる」というサイクルをきっかけに自分の思いやイメージが膨らむことができるよう教師も寄り添っていく。

(3) 研究との関わり

目指す児童像 「自ら考え、判断し、行動できる児童」

① 自ら活動に取り組むことができる児童にするために

⇒児童の身近な世界（人・もの・こと）から学びを深める

土は児童の身近にあるものだが、あまりにも近くにありすぎることもありフューチャーされることは少ない。そこで、今回はその土をもう一度着目することで児童の関心を高めていく。ただし、土を授業者が用意するのではなく、土を集めるという活動から始めることで「こと」を生み出し自分事の活動につなげていく。集めるという行為には、「どこの土を採るか探す（関わり）、どれがより良いか選ぶ（選択・判断）、実感を伴って採取する（手ざわり・量感）」という事前での学びが多々期待できる。

また、土に着目するということはそこに携わった人や自然、歴史に着目するということになる。土を材料として絵に表すというプロセスの中で、自然の美しさや不思議さ、命の循環といった壮大なテーマにまで広がる可能性のある材料である。土を集めるという行為から関わりが生まれ、土をきっかけに「こと」が生まれる。土を通して新しい価値に気付く、身近な世界をもう一度見つめ直す学びにつながっていくことを通して自分の学びとしてつながることを期待する。

② 自分で考え、判断することができる児童にするために

⇒遊び的な学び（ついやりたくなる活動）から学びを深める

土を集めるという中にも遊び的な学びは十分に含まれているのだが、今回は、土を篩にかけて分別したり、違う色と混ぜてみたり、絵の具にしてみたりという児童がついやりたくなる活動を取り入れることで遊び的な学びの場を多くつくっていく。

遊び的な活動から入ることですべての児童がまずはやってみようという気持ちで取り組めると考える。また、土と接着材を混ぜ合わせたり、分量を変えてみたりしながら、実験的に取り組ん

でみたりやり直してみたりする中で多くの発見を促すことができる。また、それらの時間を十分に確保することが、「次はこうしてみたい」という気持ちやイメージを広げ表していくきっかけになると考える。児童が自らの力で学び取っていく時間を授業者側もきちんと評価して活動する。

③ （自分らしく）行動（表現）することができる児童にするために

⇒「見る ― つくる」の関係の中で学びを深める

今回の活動は土を感じることから始まる。「土の色・質感・混色する様子・絵の具になっていく様子・かいてみて表れてくる様子」など、終始「見る―つくる」を繰り返す中で土を感じることを期待できる。授業者が一方的に指導するのではなく、児童が自らみつけよさを味わう時間になるよう場や材料の配置も意識していく。

表現を躊躇することがないように、紙のサイズもいくつか用意し、まずは気軽に表現する、それをすぐに見られる場を用意するなどして「見る―つくる」がループ的に進むことを目指していく。

以上のように学びを明確にして活動を広げることができれば、つくることと見ることを意識する中で生まれる自発的な活動が連続的に起こり活動が豊かになると考えている。活動を進めながらイメージを深め、自分なりの土の表現を追求する中で児童の思いを広げると共に、今まで児童が抱いていたものの見え方とは違うイメージをたくさん探し出す学びの場としたい。

5 指導計画（全5時間扱い 45分×4、60分×1）

時	ね ら い	学 習 内 容	評 価 規 準
1・2時 90分	土の色や形、感触などの違いを感じる。	・自分で採取し乾燥した土を篩にかける。 ・集めた土を鑑賞する。	主①（発言観察） 思・判・表①（観察）
3時 60分 （本時）	土で絵の具をつくることを味わいながら自分の表したいことを見付ける。形や色、	・採取した場所を知り、自然の色の多様な色を楽しむ。 ・土で絵の具をつくり、試しながら表したいことをみつける。	知・技①② （観察、対話、作品、写真） 思・判・表②③
4・5時 90分	表し方を考えて思いにあわせて工夫して表す。	・表したいことに合わせて関係性や組み合わせを考え作品に表す。 ・みんなの作品の良さや工夫を味わう。	（観察、対話、発言、作品、写真）

6 本時の指導計画（3／5時間）

（1）本時の目標

- ・土の色や質感を見る・比べる、土で絵の具をつくる、材料や用具の感触を味わうなどの感覚や行為を通して形や色などの感じがわかり、手や体全体を十分に働かせて、表したいことに合わせて工夫して表す。
- ・感じたこと、想像したこと、見たことから自分の表したいことを見付け、どのように表すか考えるとともに、土の色の美しさや感触、形や色のよさや面白さを感じ取り、見方や感じ方を広げる。
- ・形や色にかかわりながら、自らつくりだす喜びを味わう。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	指導・支援 *資料 ◇評価（観点・方法）
導入 (10分)	○材料や場と出会う。 【自分たちの集めた土を見て、土の色の美しさや違いを感じる。】 ○活動のめあて、注意点などを確認し見通しをもつ。 ・「色が違う!」「土もきれいだね。」	・児童が集めた土がよりよく味わえるように瓶に入れ、採取した日や場所を貼って、並べておく。 ・児童を中心に集め、容器などの材料や使い方、活動の紹介やねらい、注意点をおさえ、関心や見通しがもてるようにする。
展開 (40分)	○活動を始める。 【土で絵の具をつくることを楽しみながら、表したいことを探していく。できた作品は机に並べていく。】 ・「自分の土で絵の具をつくってみよう。」 ・「違う色を混ぜたらどうなるかな。」 ・「普通の絵の具よりザラザラしているね。」「違う紙にもかいてみよう。」 【土絵の具でできる表現の良さや違いを味わう中で表し、作品を並べる。最後はタイトルを付ける。】 ・「3つで一つの作品にしたよ。」 ・「土を採った場所を絵にしてみたよ。」	・土を選び、接着剤を混ぜて調合しながらできる色のよさや違いを味わっている姿、試しながら土絵の具を味わっている姿、感触をもとに表すことを考えている姿などを認め、共感的に見守る。 ◇知・技①②（活動の様子・表情や発言、机間指導・写真） ・児童が見付けた形や色、表し方などにどのようにイメージを広げているのか、活動の姿や作品から捉えるだけでなく尋ねたりして共有する。児童の活動を認める。 ・児童が自然と鑑賞し合える場を用意する。 活動が終了したり、停滞している児童への言葉かけ（児童の活動の振り返りや友達の活動を見ることでさらに気付くことがないか声かけしていく。） ◇思・判・表②③（活動の様子・表情や発言、対話、机間指導、作品）
まとめ (10分)	児童が導き出すであろう姿 ・土との関係で見つける。（土の色・感触・におい・絵の具への変化） ・観察により見つける。（場所・連想・イメージ） ・かかわる中で見つける。（土や友達との関係性・活動・性格・思考） ・視点を変える中で見つける。（発見・変化・よさ・違い） ・試す中で見つける。（変化・イメージ）	
	みんながみつけた「土でかく絵」を味わおう。	
	【みんなの作品を見て、自分の活動を振り返ったり、友達の活動のよさや面白さに気付き、共感したりする。】 ・「〇〇さんのつくった色面白いね。」「土でかくのが気持ちよかった。」「あんな表現もあるんだ!」 ○片付けを行う。	・形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせの感じなど、造形的な視点で振り返る。作品のタイトルにも注目し、みんなの良さやアイデア、発想を交流する。 ・認め合えるような雰囲気をつくる。 ・水場に土を流さずに、協力して片付けするよう呼びかける。 ◇思・判・表③（活動の様子・表情や発言、作品）

